

「地域資源マップ」について

1 試作版について

(平成20年6月18日現在)

練馬区

認知症になっても安心して暮らすために
～明日の自分のために～
お役立ち情報集

多摩市

高齢者暮らしの応援団
～私がつくる、みんながつくる、暮らしのガイド～
・だれもが夢をもち互いに支えあうまち
・認知症になっても自分らしく豊かに暮らせるまち

具体的な検討内容

コンセプト	○ 本人・家族を中心に病気の相談から生活の場面まで困った時に役立つマップ（情報集）～解決への道しるべ～	○ 認知症の本人や家族が困ったときに、だれに、どこに相談したらよいかを知るためのツール「地域資源ガイド」（情報保存ボックス） ○ 認知症になっても自分らしく豊かに暮らせるまちづくりのために支援者や地域の人が当事者・家族とつながっていくツール
対象者（使う人）	○ 本人・家族・その他（近隣、事業者、地域の関係機関など）	○ 認知症初期の本人、認知症の人の家族・近所・見守り・支援者、高齢者
配布方法・配布先	○ モデル地区内の全戸にポスティング →できるだけ多くの人に配布したい。	○ サポーター養成講座受講時や民生委員地域活動時、地域包括から訪問者に配布 →ツールとして機能させるために、支援を行っている人が活用方法を説明しながら配布
特徴・PRポイント	構成・体裁 ○ 本冊と簡易版と組み合わせて使う形態 ○ 本冊は、「検索ページ」と「地域資源リスト」の2部構成 ○ 「地域資源リスト」を差し替えることで区内全域への展開も視野に。 ○ マップではなく、具体的に困ったことから文字情報で検索していく文字検索・冊子型を採用 内容 ○ 検索ページは、「こんな困ったときに→こんな条件があると→こんな方法がある」という展開で相談窓口を紹介 【例】p.6 料理を作ってほしい→担当のケアマネがいる→ケアマネへ →担当のケアマネがいない→地域包括豊玉支所へ ○ 「地域資源リスト」には、所在地や連絡先だけでなく、その地域資源の解説や、本人や家族が困ったとき等に実際にその資源が役立った事例を紹介 【例】p.32 キーワード（こんな場面で役立ちます） ○ 早期発見・早期診断を促すため、認知症の「セルフチェック表」を掲載 ○ コラム欄を設け、近所・学校など、地域の「仲介資源」や「代替機能」の働き・重要性についても紹介 【例】p.28 ○ 簡易版は、最優先メッセージである地域包括の連絡先を記載し、身近なところに備え付けて使用	構成・体裁 ○ 本体（状差型）には市内共通の地域包括・医療機関などを掲載し、地区の情報は短冊型の個票を入れるボックス形式 ○ 個票を絶えず作り変えることで地域や時点に対応することができ、常に最新の情報資源として活用が可能 ○ 個票を入れ替えれば市内全域での活用が可能 ○ 地域での活動のために持って出かけるのに便利なサイズ 内容 ○ 地域資源情報だけでなく、「認知症Q&A」や「もの忘れ早期発見のチェックリスト」、「サポーター養成講座」の解説も掲載 ○ オレンジ色（＝認知症サポーターの印であるオレンジリングの色）を効果的に使用 ○ 個票のコンテンツについては、引き続き検討。現在案のほかに、介護者の会や、一人で閉じこもらず悩みや体験を共有しよう、というメッセージをいれる案などが提案されている。
今後の展開	○ 地域の関係作りのツールとして、他地区（他支所18か所）でもその地区の状況に応じた方法を考えながら、可能なところから実施したい。 ○ 地域包括支援センターの支所単位ではエリアが狭いため、本所（4か所）ごとのマップも検討課題 ○ このマップとは別に、認知症理解促進・受診勧奨等を目的とした全区民向けのパンフレットを発行予定	○ 別の地域で作成する場合、地域包括支援センター（6か所）ごとではエリアが広すぎるので、小規模な住区（多摩ニュータウンでの生活エリアの単位）を前提とした展開が現実的ではないかと考えている。

2 検討過程について

(平成20年6月18日現在)

	練馬区	多摩市																										
検討組織 (回数)	<table><tr><td colspan="2">コーディネート委員会</td></tr><tr><td>全体討議(8回)</td><td>コンセプトの検討 地域資源・活用事例等のリストアップ</td></tr><tr><td>グループワーク(2回)</td><td>委員会に提示されたたたき台について、修正点・改善点の洗い出し</td></tr><tr><td>事前検討会(10回)</td><td>コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討</td></tr><tr><td>事務局会議(7回)</td><td>委員会・事前検討会用資料の作成</td></tr><tr><td>有志によるマップ検討会議(6回)</td><td>最終原稿の作成</td></tr></table>	コーディネート委員会		全体討議(8回)	コンセプトの検討 地域資源・活用事例等のリストアップ	グループワーク(2回)	委員会に提示されたたたき台について、修正点・改善点の洗い出し	事前検討会(10回)	コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討	事務局会議(7回)	委員会・事前検討会用資料の作成	有志によるマップ検討会議(6回)	最終原稿の作成	<table><tr><td colspan="2">コーディネート委員会</td></tr><tr><td>全体討議(2回)</td><td>意見調整や方向性の決定</td></tr><tr><td>グループワーク(1回)</td><td>3グループでそれぞれにマップ案を作成し、プレゼンテーション</td></tr><tr><td>コア会議(8回)</td><td>・コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討 ・ワークショップを実施</td></tr></table>	コーディネート委員会		全体討議(2回)	意見調整や方向性の決定	グループワーク(1回)	3グループでそれぞれにマップ案を作成し、プレゼンテーション	コア会議(8回)	・コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討 ・ワークショップを実施						
コーディネート委員会																												
全体討議(8回)	コンセプトの検討 地域資源・活用事例等のリストアップ																											
グループワーク(2回)	委員会に提示されたたたき台について、修正点・改善点の洗い出し																											
事前検討会(10回)	コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討																											
事務局会議(7回)	委員会・事前検討会用資料の作成																											
有志によるマップ検討会議(6回)	最終原稿の作成																											
コーディネート委員会																												
全体討議(2回)	意見調整や方向性の決定																											
グループワーク(1回)	3グループでそれぞれにマップ案を作成し、プレゼンテーション																											
コア会議(8回)	・コーディネート委員会での進め方や使用する資料案について検討 ・ワークショップを実施																											
検討過程	<table><tr><td>踏査</td><td>委員・事務局でモデルエリア内の踏査</td></tr><tr><td>現状認識整理 ・将来像の共有</td><td>・委員間で地域資源についての共通認識 ・マップ作りの目指すべき将来像は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」</td></tr><tr><td>本人・家族へアンケート</td><td>暮らしの役立った情報、困っていることを調査</td></tr><tr><td>地域資源を列挙</td><td>各資源の現状・働き・課題を整理</td></tr><tr><td>活用事例の整理</td><td>各地域資源が実際に生かされた場面を整理</td></tr><tr><td>見出し作り</td><td>本人・家族が困った時に検索するための見出し</td></tr><tr><td>試作版の提示</td><td>情報量が多くなるため簡易版の作成も決定</td></tr></table>	踏査	委員・事務局でモデルエリア内の踏査	現状認識整理 ・将来像の共有	・委員間で地域資源についての共通認識 ・マップ作りの目指すべき将来像は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」	本人・家族へアンケート	暮らしの役立った情報、困っていることを調査	地域資源を列挙	各資源の現状・働き・課題を整理	活用事例の整理	各地域資源が実際に生かされた場面を整理	見出し作り	本人・家族が困った時に検索するための見出し	試作版の提示	情報量が多くなるため簡易版の作成も決定	<table><tr><td>地域資源の情報収集</td><td>委員、事務局がそれぞれ有する地域資源情報を集約・共有</td></tr><tr><td>コンセプト作成</td><td>初期のグレイゾーン 地域づくりのツール 普及啓発のツール 相談窓口の周知</td></tr><tr><td>イメージ案作成</td><td></td></tr><tr><td>グループワーク、プレゼン</td><td>3つのグループに別れ、コンセプトを具体化するためのマップ案について検討・プレゼン</td></tr><tr><td>3つのグループの意見を整理</td><td>エリア、対象者、認知症という言葉の使用 等</td></tr><tr><td>試作版の提示</td><td>個票について引き続き検討</td></tr></table>	地域資源の情報収集	委員、事務局がそれぞれ有する地域資源情報を集約・共有	コンセプト作成	初期のグレイゾーン 地域づくりのツール 普及啓発のツール 相談窓口の周知	イメージ案作成		グループワーク、プレゼン	3つのグループに別れ、コンセプトを具体化するためのマップ案について検討・プレゼン	3つのグループの意見を整理	エリア、対象者、認知症という言葉の使用 等	試作版の提示	個票について引き続き検討
踏査	委員・事務局でモデルエリア内の踏査																											
現状認識整理 ・将来像の共有	・委員間で地域資源についての共通認識 ・マップ作りの目指すべき将来像は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」																											
本人・家族へアンケート	暮らしの役立った情報、困っていることを調査																											
地域資源を列挙	各資源の現状・働き・課題を整理																											
活用事例の整理	各地域資源が実際に生かされた場面を整理																											
見出し作り	本人・家族が困った時に検索するための見出し																											
試作版の提示	情報量が多くなるため簡易版の作成も決定																											
地域資源の情報収集	委員、事務局がそれぞれ有する地域資源情報を集約・共有																											
コンセプト作成	初期のグレイゾーン 地域づくりのツール 普及啓発のツール 相談窓口の周知																											
イメージ案作成																												
グループワーク、プレゼン	3つのグループに別れ、コンセプトを具体化するためのマップ案について検討・プレゼン																											
3つのグループの意見を整理	エリア、対象者、認知症という言葉の使用 等																											
試作版の提示	個票について引き続き検討																											
作成方法のPRポイント	- 出された地域資源について、どんな場面で なんのために活用したのか、実際に役に立った具体的な活用事例を列挙 「本人・家族にとって役立った場面」と「近隣の住民が支えあうために役立った場面」について実際に役に立った事例を挙げて検討 - 具体的な活用事例から、共通の困りごとや悩みをグループ分け - 本人・家族の視点で、困りごとの内容から、どこに相談したら良いかを検索する形にした。	- イメージ案をたたき台に、 使う人 使う場面 載せる情報 体裁 配布方法 などについて3グループに分かれて検討 - 検討結果をコーディネート委員会でプレゼンテーション - プレゼンを踏まえて、コーディネート委員会で全体討議 3グループ共通意見や全体討議で出た意見を踏まえて試作版を作成																										
作成過程で明らかに なったこと・ 得られたもの	- マップの作成は地域の関係作りのツールとして効果があった。 「本人・家族にとって役立った場面」と「近隣の住民が支えあうために役立った場面」について実際に役に立った事例を挙げて検討することにより具体的な役に立つ地域資源を知ることが出来た。 - 事例を追求する中で、本人に対する支援を行うためには、直接支援を行う地域資源のほかに、「仲介資源」や「代替機能」を探りたいとの考えが出てきた。 - 有志により引き続き「仲介資源」や「代替機能」の研究を進めることとなった。	- 認知症という言葉に対して、様々な受け取り方や固定観念が考えられ、表紙に使うか否かについて委員間でも考え方に違いがあった。 - ツールとしての活用方法を説明しつつ多くの人にも知ってもらうため、地域委員が企画している認知症の理解促進のイベント時にも配ることとなった。 - 委員内に、普及啓発についての必要性についても認識が深まった。特に地域委員が自治会・学校等と連携した活動を開始した。																										